

ブックリスト



① 『ともだちや』

(作)内田 麟太郎 (絵)降矢 なな



(偕成社/2011年)

ある日、キツネは「ともだちや」を始めることを思いました。1時間100円でともだちになってあげるのですが、さて…。

② 『ぼくらはうまいもんフライヤーズ』

(作・絵)岡田 よしたか



(プロズ新社/2016年)

「やきゅうやれへんか?」と空き地で声をかけたのは、エビフライとアジフライ。となりまちの野球チームと試合をするため、メンバーあつめます。フライドポテトやコロッケ、たこ焼きなど続々とやってきました。さあ、フライなべ監督のもと、猛特訓開始!

③ 『大ピンチずかん』

(作・絵)鈴木 のりたけ



(小学館/2022年)

子どもが会う世の中のさまざまな大ピンチを「大ピンチレベル」と、5段階の「なりやすさ」で分類してその大ピンチの対処法を紹介するなど、あらゆる方向から大ピンチをときあかします。思わずふき出すユーモアにあふれた1冊です。

④ 『あーっとかたづけ』

(作・絵)田中 達也



(福音館書店/2023年)

ミニチュア写真家・見立て作家の田中達也による「みたて」絵本。玄関が砂浜に、洗面台がプールに、トイレがスキー場に変身します。身近なものが別のものに見えてくる驚きと面白さにあふれた写真絵本です。

⑤ 『ハンバーグだいすき』

(作)荻田 澄子 (絵)いわさき まゆこ



(金の星社/2025年)

だいすきだいすき、ハンバーグ。ポウルに材料をいれて、手をぐーぱーしてかきまぜるよ。ふんわりまるめたらフライパンで、じゅう?じゅう?。かんせーい!心おどる擬音語でお料理する気分が味わえる絵本です。

⑥ 『おうさまがかえってくる100びょうまえ!』

(作・絵)柏原 佳世子



(えほんの社/2018年)

王様がお出掛けしたある日、3人の家来たちは王様の部屋を散らかし放題。「王様が帰ってくるぞー!!帰ってくるまで…あと100秒だ!部屋を片付けろ!」数字を数えるスピーディーな展開に子どもも夢中になってカウントしながら物語の中へ。

⑦ 『うかぶかな?しずむかな?』

(作)川村 康文 (写真)遠藤 宏



(岩崎書店/2023年)

水の中にボールを入れたりミニカーを入れたり野菜を入れたり…。どれうかぶ?どれしずむ?どんどん実験してみよう。ラストにくすっ!目に見えない浮力が幼児に伝わる絵本です。

⑧ 『しーっ!ひみつのさくせん』

(作)クリス・ホートン (訳)木坂 涼



(BL出版/2014年)

4人組がもりにやってきました。「そーっとそーっと しーっ!」どうやら、とりをねらっているようです。鮮やかな色使い、デザイン性がありながら、文字を最小限にとどめ、おさない子どもでもひとりでも読める絵本です。